



参考：国連開発計画(UNDP)『Human Development Report 2007/2008』、ほか

温室効果ガスと地球温暖化

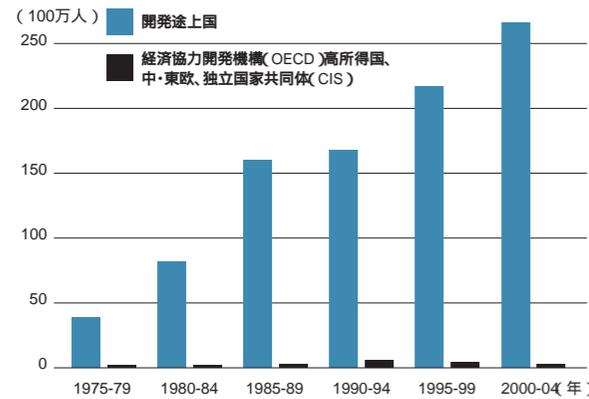
29

B 開発途上国と地球温暖化

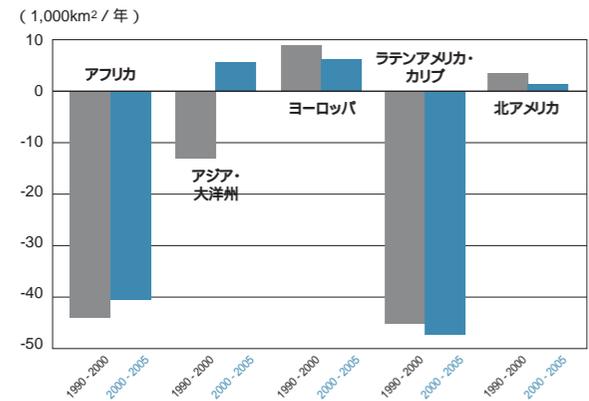
DATA

出典：UNDP『Human Development Report 2007/2008』、同『GEO 4』(財)地球環境産業技術研究機構ウェブサイト(<http://www.rite.or.jp>)

気象災害の影響を受けた人々(年間平均人数)



森林面積の変化(年間平均面積)

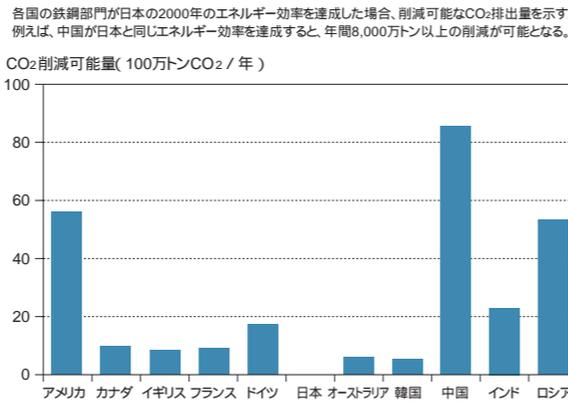


ケニアの干ばつによる食料不足と人間開発指数

2005年11月～06年10月に食料不足に陥った地域	2005年の人間開発指数	その他の地域	2005年の人間開発指数
ガリッサ	0.267	モンバサ	0.769
イシオロ	0.580	ナイロビ	0.773
マンデラ	0.310		
マルサビト	0.411	ケニア全国平均	0.532
ムインギ	0.501		
サンブール	0.347		
トゥルカナ	0.172		
ワジル	0.256		

人間開発指数(Human Development Index: HDI)とは、人間開発の度合いを測る包括的な経済社会指標。各国の達成度を、長寿、知識、人間らしい生活水準の3つの分野について計測。1に近いほど人間開発が進んでいることを示す。日本の05年のHDIは0.953。

各国の鉄鋼部門におけるエネルギー効率向上によるCO₂削減可能性

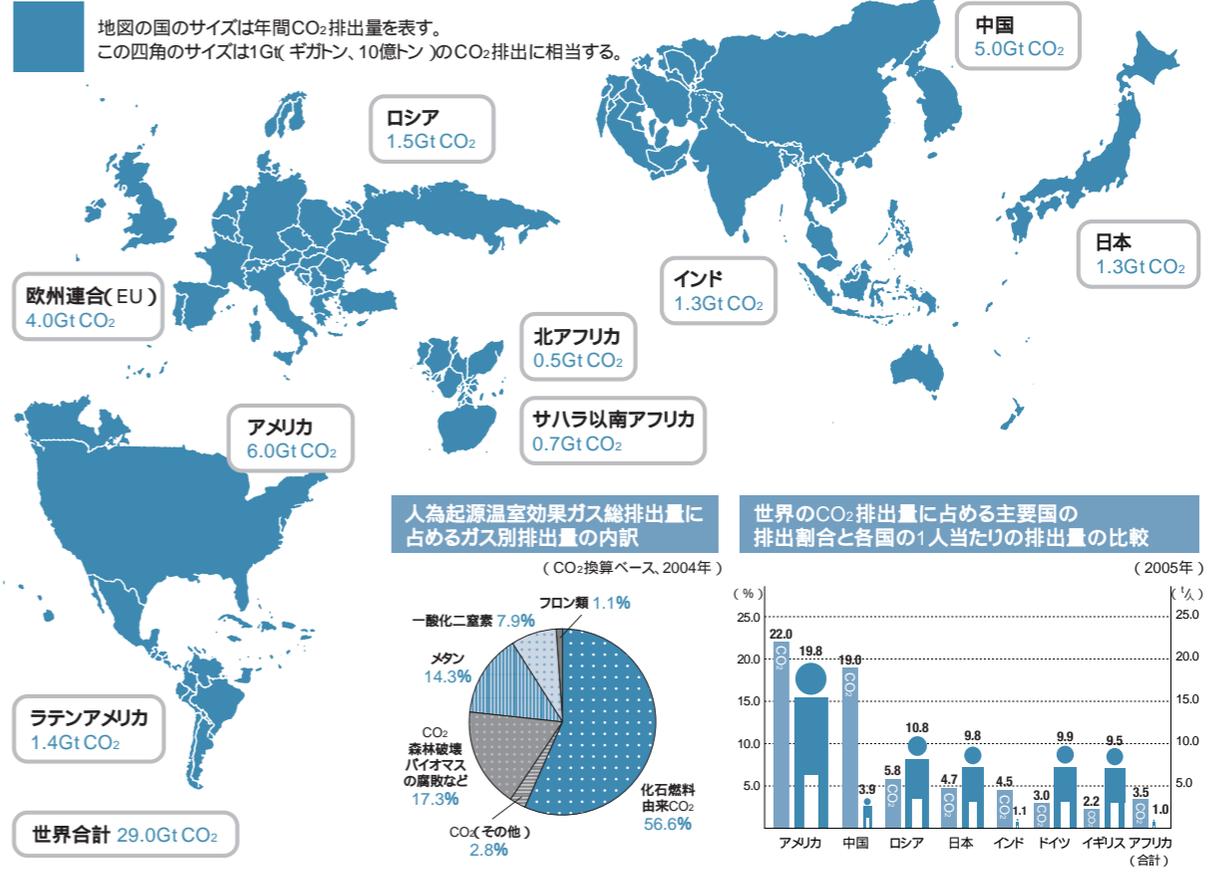


A 世界の二酸化炭素(CO₂)排出

DATA

出典：UNDP『Human Development Report 2007/2008』、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)『Climate Change 2007: Synthesis Report』、ほか

エネルギー使用に起因するCO₂排出量 (2004年)



CO₂排出の少ない人々に被害が集中

地球温暖化は、豊かな国の人々が便利な生活を求めて排出してきた温室効果ガスが引き起こしたといえる。だが、干ばつや洪水など、温暖化が影響するとみられる気象災害の被災者の多くは、CO₂をあまり出していない途上国の人々だ。貧困層はリスクに対処する能力が限られるため、異常気象の衝撃に耐えることができない。ケニアでは、干ばつのため食料不足に陥った地域の人間開発指数は、ほかの地域を大きく下回った。CO₂の吸収源である森林の減少は、温暖化に拍車を

掛ける。貧しい人々が燃料とする薪を取るため、農地を広げるために、木々が倒されてゆく。国連気候変動枠組条約(UNFCCC)は、豊かな国々が貧しい国々の適応能力を支援することを義務付けている。私たちは毎年多くの森林が消えるアフリカや南米の人々と協力し、保全の努力をしなければならない。森林減少以外にも、都市化に伴うごみの増加や交通渋滞、エネルギー需要の増加など、温暖化に結びつくさまざまな課題がある。早くから省エネに取り組み、高い技術を持つ日本が果たせる役割は大きい。

増える開発途上国からの温室効果ガス

エネルギー使用と地球温暖化には大きな関係がある。温室効果ガスの半分以上は、化石燃料の燃焼で発生しているからだ。上の地図は、エネルギー使用により各国が排出した二酸化炭素(CO₂)の量を面積で表したものの。アメリカや日本など排出量の多い国が異様に大きく、実際の面積では大きいはずのアフリカや南米が極端に小さい。また、アフリカの中でも南アフリカ共和国や北アフリカ諸国の排出量が多いことが分かる。現在の地球温暖化は、過去に排出され蓄積された温

室効果ガスが招いている。その多くは先進国が排出してきたものだが、近年は途上国の排出量も増えている。途上国のエネルギー関連のCO₂排出は、1990年時点で世界全体の20%ほどだったが、2004年には42%に。2030年には50%を超えると予測される。特に、成長著しい中国は最大の排出国アメリカを抜き、世界一の排出国になろうとしている。一方、1人当たりの排出量は、中国は日本の半分以上、インドは9分の1でしかない。温室効果ガスの発生源がどこであろうと、温暖化の影響は大気を共有する私たちすべてに降りかかる。